

外国語科目群

英語

◆平成 28 年度以降学部入学者対象

科目名	符 号	開講期	単位	対象回生	定員	備 考
英語リーディング	ER	前期	2	1のみ	約 40	1 回生専用クラス・アカデミック リーディング
		後期	2	1のみ	約 40	
	ESR	前期	2	2以上	約 60	単位未修得者クラス
		後期	2	1以上	約 60	
英語ライティングーリスニング A	EWLA	前期	2	1のみ	約 20	1 回生専用クラス・アカデミック ライティング&リスニング
		後期	2	1のみ	約 25	
	ESWLA	前期	2	2以上	約 50	単位未修得者クラス
		後期	2	1以上	約 50	
英語ライティングーリスニング B	EWLB	後期	2	1のみ	約 20	1 回生専用クラス・アカデミック ライティング&リスニング
		後期	2	1のみ	約 25	
	ESWLB	前期	2	2以上	約 50	単位未修得者クラス
		後期	2	2以上	約 50	

1 回生対象の英語科目は平成 28 年度に改編されました。英語科目には大別して、リーディングクラスとライティングーリスニングクラスの二つがあり、それぞれを履修しなければなりません。

リーディングクラスは、学部の履修方針に応じた洋書や、まとまった長さのある学術的な文献などを対象としたアカデミックリーディングを通して、英語による学術的教養の涵養を目指しています。アカデミックリーディングは、英文の意味を捉える読解力の強化を目指すとともに、その文章が書かれた文化的、社会的背景や思想などにまで踏み込むものです。教員からの一方的な教授ではなく、対話による能動的な学習を行うことで、英米のみならず、様々な国の文化や社会、思想の理解を通じて、真に国際人として通用する教養と知識の涵養に努めます。

ライティングーリスニングクラスは、1 クラスあたり約 20 名の少人数クラスによる、きめ細かな指導の下、英語技能の習得に努めます。ライティングに関しては、学術的な文章の作成に必須となる論理的な英文の基本構造を学び、エッセイライティングやレポート作成などのアカデミックライティングを通して、学術的言語技能を養うことを目標としています。また、リスニングに関しては、オンライン課題に取り組むことで、英語による講義の聴講を念頭に置いた聴解力を育成します。さらに、外国人教員と日本人教員のチームティーチングを導入し、前期もしくは後期のいずれかを外国人教員が担当することで、英語コミュニケーション能力の育成を目指します。

いずれのクラスも、大学の英語科目としてふさわしい内容とレベルを考慮しています。

◆工学部地球工学科国際コース・Kyoto iUP 生対象

Scientific English I A (Reading and Writing)

Scientific English I B (Technical Communication & Discussions)

初修外国語

卒業に必要な初修外国語の単位規定や予備登録規定などについては、「全学共通科目履修の手引き」(本冊子)を参照して下さい。また成績評価の詳しい基準は各科目ごとに授業中に指示します。

ドイツ語 – German –

ドイツ語は、ドイツはもちろん、オーストリアやスイスをはじめとした 6 カ国以上で公用語とされている、ヨーロッパを代表する言語の一つです。広い地域で母語として話される生きた言語であると同時に、多くの非母語話者によって習得

が目指される主要な言語でもあります。学問をするためにも必須の言語で、哲学をはじめとした人文学や、社会科学分野には多くのドイツ語古典がある他、現在でも重要な研究文献がしばしばドイツ語で書かれています。このように、ドイツ語で書かれた文献を読むことができれば、研究に多に活用できるのはもちろん、さらにはドイツ語圏の歴史や文化、思考法を深く理解することもできます（そしてドイツ語圏の文化は、いわゆるドイツ人だけでなく、例えばユダヤ系のルーツを持つ人々によって紡がれてきたものであります）。

とはいえ、ドイツ語は大部分の学生にとって、初めて学ぶ外国語であろうと思います。そのため初級ドイツ語の授業は、ドイツ語の文字を正しく発音することに始まります。1 回生向けの初級ドイツ語は「文法」と「演習」からなり、それぞれが相互に補いながら、内容的にも構文的にもあまり複雑でない文章を読み書きする能力、またドイツ語を用いて簡単な会話ができる程度の力を養います。2 回生以上向けの「中級ドイツ語」では、初級ドイツ語の知識を前提に、内容的にも幾分深みのあるドイツ語文を読み書きし、多少複雑な構文を正確に理解する能力を身につけることを目標にしています。中級のテキストは文学作品や哲学・思想的著作をはじめ、時事問題に関する評論など、できるだけ多様なものを提供し、学生の関心に応えられるようにしています。

また、ドイツ語の会話力をさらに高め、種々のテーマに関してドイツ語で専門的な発表が行えるように、会話・ライティングおよび CALL 授業も開講されています。さらに、もっと集中的にドイツ語を学びたい人のために「6H コース」（週 3 回の授業）や、高度なドイツ語能力を身につけたい人たちのために「上級ドイツ語」も設けられています。詳しくはシラバスの説明を読んで選んでください。

◆全回生対象（初級） ※再履修者クラスを含みます

ドイツ語 I A・B（文法）

ドイツ語 I A・B（演習）

ドイツ語 I（6H コース）

◆学部 2 回生以上対象（中・上級）

ドイツ語 II A・B

ドイツ語 II A・B（会話）

ドイツ語 II A・B（CALL）

ドイツ語 II A・B（ライティング）

ドイツ語 II（6H コース）

ドイツ語 III A・B

フランス語 – French –

フランス語は、西欧の知的世界の共通語として用いられてきた輝かしい文化的伝統を持ち、現在も英語に次ぐ国際語です。また学問・教養のための外国語としては世界各国で最も広く学ばれていて、ヨーロッパでは知識人でフランス語のできない人はほとんどいません。したがって、国連やユネスコなどの国際機関・国際会議で常に公用語の一つになっています。また、フランス語は、スイス・ベルギー・カナダのほか、アフリカ諸国のほぼ半数、中近東・東南アジアなどの多くの国々でも、公用語あるいは最もよく通じる外国語です。

このように国際舞台上で重要なフランス語ですが、その学習のために、学生の皆さんのニーズの多様化に応える、さまざまなコースが用意されています。1 回生向けでは標準コースの①「クラス別コース」とインテンシブ・コースの②「8H コース」、2 回生向けでは、標準コースの③「中級」とインテンシブ・コースの④「6H コース」があります。さらに、中級まで終えた人のために、より高度な⑤「上級」も用意されています。すべてのコースで、「読む」「書く」「話す」「聞く」の 4 つの能力を総合的に開発するように配慮され、インテンシブ・コース②④はもとより、標準コース①においても、すべてのクラスにネイティブ・スピーカーの授業が設けられています。

それぞれの到達目標は、以下のとおりです。

◎標準コース①と③の組み合わせでは、週 2 回の授業を 2 年間で、

「読む」能力：辞書を引きながらフランス語の文章をある程度のスピードで読むことができます。

「書く」能力：簡単なフランス語の手紙文程度の文章を書くことができます。

「話す」と「聞く」能力：日常会話の受け答えがある程度できます。

◎インテンシブ・コースの②と④の組み合わせでは、1 回生週 4 回、2 回生週 3 回の授業で、

「読む」能力：辞書を引きながらフランス語の文章をかなりのスピードで読むことができます。

「書く」能力：フランス語の手紙文程度の文章をかなり書くことができます。

「話す」と「聞く」能力：日常会話の受け答えが非常にスムーズにできます。

◎⑤「上級」では、上記を超えるフランス語運用能力が獲得でき、フランス文化全般についての理解もある程度深ま

ります。

以上のようなフランス語運用能力の養成は、学問の場にいる者にふさわしい学術的言語技能の涵養に資することを最終目標にして行われます。

◆全回生対象（初級） ※再履修者クラスを含みます

フランス語 I A・B（文法）
フランス語 I A・B（演習）
フランス語 I（8H コース）

◆学部2回生以上対象（中・上級）

フランス語 II A・B
フランス語 II A・B（演習）
フランス語 II（6H コース）
フランス語 III A・B

中国語 — Chinese —

我々が学ぶ「中国語」は、多民族国家である中国において圧倒的多数を占める漢民族の言語、すなわち「漢語」をさします。漢語は、文字記録によって確認されるだけでも三千三百年もの歴史を持ち、現在は十億人以上の人々に使用されている大言語です。漢語には多様で豊富な方言が存在するのですが、我々が大学で学ぶ「中国語」は、特定の地域の漢語方言ではなく、「普通話」と呼ばれる、北京方言を基礎として規範化された共通語です。これは、近代以降に、方言差異に起因する教育の困難さを克服することを目的の一つとして制定されたものであり、現在では多くの中国人が、自身の方言あるいは民族語と、「普通話」とを併用しています。皆さんが、大学で「普通話」を習得すれば、何億もの人々と直接的にコミュニケーションし得る道具を手に入れることになるのです。

漢字を使い、多くの「音読み」の漢字語を持つ日本人にとって、中国語は入門しやすい外国語の一つです。これは奈良時代以前から、日本人が漢籍を通じて中国語を受容し、日本語の中に「音読み」という中国語からの借用語を不断に取り入れてきた結果に他なりません。その一方、「政府」「経済」「革命」「文化」「理論」「分析」といった現代日本語で近代的概念を表す「音読み」の漢字語は、その少なからぬものが、明治維新时期前後の日本において、伝統的な「音読み」の漢字語に近代的な意味が付与されて創られたものであり、上述の単語のようにしばしば現代中国語に「逆輸入」されています。大学で「中国語」を学ぶことは、以上のような複雑で重層的な日本語と中国語との歴史的な関係を窺い知ることにも繋がるのです。

本学においては、発音と基本的表現の習得を目的とする初級として、「中国語 I A・B（文法）、I A・B（演習）」が、また読解力、表現力などさまざまな面からのより進んだ学習を目的とする中級として、「中国語 II A・B」が開講されています。

◆全回生対象（初級） ※再履修者クラスを含みます

中国語 I A・B（文法）
中国語 I A・B（演習）

◆学部2回生以上対象（中級）

中国語 II A・B

ロシア語 — Russian —

Здравствуйте! Давайте изучать русский язык вместе в Киотском университете! 「こんにちは！京都大学で一緒にロシア語を勉強しましょう！」。ロシア語はキリル文字を用います。この文字が読めるようになったら、書けるようになったらカッコよくないですか？ロシア語の文法規則は複雑ですが、その分新鮮な気持ちで学べるはずですよ。

日本の隣国であるロシアは単に面積が大きいだけではありません。文学、音楽、宇宙開発、天然資源、演劇、バレエ、スポーツ…ロシアは「〇〇大国」とよく呼ばれるにふさわしく、世界に誇る分野を数多く持っています。また、国際社会でも常に独特の存在感を放っています。ロシア語はヨーロッパからアジアにまたがる広大な地域を中心に、5億人に達する人々によって話されています。ロシア語を勉強することは、ロシアの文化や社会を知るだけでなく、多様な旧ソ連の国々やロシア国内の諸民族の言語や文化、ウクライナやブルガリアなど、ロシア語と同じスラヴ系の東欧諸国の言語や文化を知る足がかりにもなります。

このロシア語を初めて学ぶ学生の皆さんに最適なコースとして、ロシア語 I（文法）およびロシア語 I（演習）のセッ

ト授業が用意されています。一週間に文法と演習を各1コマずつ、合計2コマを履修します。初級履修者にとって必要にして十分なロシア語の力が、無理なく着実に養えるコースです。ロシア語初級の授業は回生・学部・クラスに関係なく、誰でも受講できます。辞書を引きながら新聞や雑誌の簡単な記事を読めることが、初級の到達目標です。中級では、知的鍛錬・教養の向上を念頭に置きつつ、読解力を高め、専門領域での最低限の情報収集能力を身につけさせることが目標です。同時に、「読む・書く・聴く・話す」のバランスのとれたロシア語の力を目指して行きます。さらに、上級では、初級と中級で学んだ文法事項をさらに強化し、様々なジャンルのロシア語のテキストの読解力を高めることを目標とします。

◆全回生対象（初級）

ロシア語ⅠA・B（文法）

ロシア語ⅠA・B（演習）

◆学部2回生以上対象（中・上級）

ロシア語ⅡA・B

ロシア語ⅢA・B

イタリア語 — Italian —

「すべての道はローマに通ず」（*Tutte le strade conducono a Roma*）と、かつて言われましたが、永遠の都ローマをはじめ、ファッションで世界をリードするミラノや、ルネサンスの花の都フィレンツェ、マルコ・ポーロを生んだ水の都ヴェネツィアなど、輝かしい都市文化の伝統をもつイタリアは、今日もお全世界の人々を魅了してやまない国のひとつです。

そのような古代ローマ以来の長い文化的背景を有するイタリア語は、ラテン語を母胎とするロマンス諸語のひとつであり、地中海沿岸地域やラテン・アメリカ諸国で使用されているポルトガル語、スペイン語、カタロニア語、フランス語、ルーマニア語などとは姉妹言語に当たります。

イタリア語Ⅰは、発音から始まり、イタリア語の基本知識の習得を旨とする入門コースです。文法を集中的に学習するクラス（4Hコース）と、最初から簡単な会話を並行して学ぶクラス（文法と演習のセット）の2種がありますが、ある程度本腰を入れてイタリア語をやってみようという人には、時間割の許す限り前者のクラスをお奨めします。13世紀以来ほとんどその姿を変えていないイタリア語の場合、会話を上達させるうえでもオーソドックスな文法の知識がきわめて重要だからです。

また、後者のクラスを選んだ場合には、2回生以上を対象としたイタリア語Ⅱの履修に制限が生じますので、全学共通科目履修の手引きの「外国語の履修について」の該当頁をよく読んでください。

◆全回生対象（初級）

イタリア語ⅠA・B（文法）

イタリア語ⅠA・B（演習）

イタリア語ⅠA・B（4Hコース）

◆学部2回生以上対象（中級）

イタリア語ⅡA・B

イタリア語ⅡA・B（演習）

スペイン語 — Spanish —

みなさんの多くは、大学ではじめて母語と異なる言語、つまり「異言語」とまともに向き合うことになると思います。大学より前の教育課程では英語のみを学んできた人が大部分だと思いますが、多くの場合、その学習は受験という目的に向かって突き進む、単線的なものであったはずですが、言語学習一般から見ると、その学習経験は、非常に特異で限定されたものです。これからは、その経験にとらわれることなく、さまざまな試行錯誤を繰り返すことを厭わずに学習をすすめるという態度が不可欠になります。なぜなら、大学での言語の授業とは一里塚のようなものであり、一里塚をたどっていけば一定の目標が達成されるように配慮されていますが、一里塚と一里塚の間は自分の足で歩くことを求められるからです。一里塚と一里塚の間に道は無数にあり、正しい道が決まっているわけではありません。一里塚と一里塚の間で迷ったり、どんどん先の一里塚を提示されて、ついていくことを断念してしまう人もいます。迷ったり遅れたりした時に、一緒に歩いている仲間にあずねたり、地図とコンパスを見て確認したり、教員に助力を仰ぐという行動をとることができる必要があります。だまっけていても誰も手を引いてはくれません。主体的に道を探し、それを自らの足で歩いてみるのが要求されます。

受験英語の学習と大学での言語学習との根本的な違いは、その目的設定にあります。受験のための英語学習は合格のためという目的が明確であり、そのため重要なポイントも所与のもので（試験にでるところが重要）。ところが、大学での言語学習は、あらかじめ与えられた目的があるわけではなく、目的の設定から学習者が行わなければなりません。そのため、重要なポイントも決まっていません。なにが重要かということは、目的によって変化するからです。とりわけ言語のような、あらゆる局面で用いることができる一種の万能道具という側面を持つものであれば、なおさらです。もちろん、スペイン語習得一般において重要な点はほぼ決まっており、学習開始当初はみなさんにとってもそれが重要となります。しかし、学習が進むにつれて、一般的に重要なポイントと「あなた」にとって重要なポイントの間にズレが生じることは十分にあり得ることです。

ちなみに、大学での1単位というのは、45時間の学修によって構成される内容と定められています。授業だけでは想定されている学修時間には足りず、不足分は授業外で行う必要があるということです。もちろんこれは標準的かつ最低限の想定であり、学習者個人が自らの状況を判断して学修時間を増減させることが必要です。

あたらしい言語を学び、それを通じて得られる新しい経験は、非常に魅力的なものです。上に述べたことは、スペイン語独特の魅力をよりよく味わうために必要なことなのです。厳しく響くかもしれませんが、それだけの見返りはあると思います。

なお、平成28年度より、中級履修のための条件が「スペイン語ⅠB（文法）の単位を修得していること」と変更になりました。全学共通科目履修の手引きの「外国語の履修について」の該当頁をよく読んでください。また、会話コースは特殊な形態ですので、欠席の扱いが他コースとは異なります。シラバスを熟読してください。

◆全回生対象（初級） ※再履修者クラスを含みます

- スペイン語ⅠA・B（文法）
- スペイン語ⅠA・B（演習）
- スペイン語ⅠA・B（会話）

◆学部2回生以上対象（中級）

- スペイン語ⅡA・B
- スペイン語ⅡA・B（演習）

朝鮮語 — Korean —

「はじめて話すのに、なつかしい」

日本語を母語とする人にとって、朝鮮語との出会いは、こんな感じではないか、と思います。今まで全く縁遠い言葉だったのに、はじめてこの言葉に接した途端、なぜか昔から知っていた音のようになつかしく、私たちの心の中で響くのです。

朝鮮語は、主に朝鮮半島に住む人びとによって使われている言葉です。日本でこの言語を呼ぶ名称は一定しておらず、韓国語といたりコリア語といたりもします。本学では朝鮮語と呼んでいますが、韓国語やコリア語といっても内容は全く同じものです。そのほか「ハングル」という名称もありますが、この「ハングル」というのは朝鮮語を表記する「文字」の名前ですので、本来は言語の名称として「ハングル」という言葉を使うのは間違いです。

朝鮮半島には現在、「大韓民国（韓国）」と「朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）」という二つの国がありますが、この二国はもともと同じ民族の一つの国でしたので、そこで使われている言葉も同じものです。ただ、分断されてすでに70年近くの年月が経っていますので、若干の違いが生じていますが、それでも韓国の人と北朝鮮の人が出会ってもほとんどの言葉は通じます。

朝鮮半島に住む8千万人近くの人びとがこの言語を使用しています（そのほか海外に暮らすコリアンも数百万の単位で存在します）。数としてはほかの初修外国語より少ないといえますが、何といても日本語を母語とする者にとっては、特別に親密な関係にある言語ということが出来ます。単に日本のお隣の国の言葉だ、というだけでなく、日本語ときわめてよく似た言語である、というのが朝鮮語の最大の特徴といえるでしょう。

まず驚くことは、文のしくみがそっくりなのです。「私は今日バツハを聴きたいです」という日本語を朝鮮語にするには、「私」「は」「今日」「バツハ」「を」「聴き」「たい」「です」という文の要素をひとつひとつ朝鮮語にして、日本語と全く同じ順番でそのまま並べればよいだけなのです。むずかしい文法用語を知らなくても、あっという間に立派な朝鮮語をつくる事が出来ます。

そのほか、漢字語を多用し、その熟語が日本語と同じものが非常に多いのも、日本語母語話者にとって非常に学習しやすいポイントです。ハングルという幾何学模様のような文字で表記されていますので、最初はとっつきにくいのですが、実はもともとは漢字からできている語彙が、朝鮮語にはきわめて多いのです。

近年、ようやく隣国の言葉や文化を学習する日本人が増えてきました。歴史的に日本と最も近く、密接な関係にあった

朝鮮半島の言葉や文化を知ることは、日本の言葉や文化をより深く知ることにも通じるでしょう。そして 21 世紀の複雑化する世界情勢理解への足がかりを、隣国を知ることから始めるのも意義あることです。

まず初修者は、「ハングル」という文字を読めるようになる必要があります。ハングルは 15 世紀に人工的につくられた新しい文字で、そのため非常に合理的なしくみでできています。10 の母音字母と 14 の子音字母を基本として、これを組み合わせて一音節を一文字で表記します。数週間でこの文字に慣れた後の文法の学習は、日本語母語話者には非常に理解しやすと思います。1 年間の学習で、新聞・雑誌などの記事を辞書を引ながら読むことができるレベルに到達することが目標です。その後はより高度な文法を身につけ、読解力を高めてゆきます。朝鮮半島と日本の関係、世界の中での朝鮮半島の位置づけなどの点に留意しながら、多様な文献を読み、朝鮮半島の人びととコミュニケーションする能力を養います。

◆全回生対象（初級）

朝鮮語 I A・B（文法）

朝鮮語 I A・B（演習）

◆学部 2 回生以上対象（中級）

朝鮮語 II A・B

朝鮮語 II A・B（演習）

アラビア語 — Arabic —

アラビア語は、広くアラブ世界の国語であると同時に、国連の公用語の一つでもあります。一口に「アラブ世界」といっても、東はインド洋に面したアラビア半島のオマーンから西は大西洋に臨む北アフリカのモロッコ、西サハラまで、国の数は 20 以上。気候風土も歴史も、政治、文化も実にさまざまであり、宗教的にもムスリム（イスラーム教徒）のみならずキリスト教徒、ユダヤ教徒をはじめ多様な信仰が存在します。しかし、そうした多様性を貫いてあるのが、「アラビア語」という言語文化を共有する者としての、「アラブ人」というアイデンティティです。「アラブ人」とは、アラビア語という言語を自らの母語とする、あるいは、歴史的にアラビア語で培われた文化に自らの文化的アイデンティティを見出す者たちのことです。

言語学的にはセム系言語のひとつであるアラビア語は、長母音を除いて母音は表記されません。つまり短母音の場合は子音のみで綴られるということです。そして、3 つの子音の組み合わせからなる 3 語根の動詞基本形を中心に、第 10 形まで派生形が展開し、その他の品詞もこの動詞基本形（3 語根）から派生しています。これが、同じセム系言語であるヘブライ語とも共通するアラビア語の最大の特色のひとつです。

また、アラビア語の社会言語学的特徴として、アラブ世界の共通語であり読み書きのことばである正則アラビア語（フスハー）とそれぞれの地域における話しことば（アーンミーヤ）のダイグロシア（二言語併用）が挙げられます。私たちが授業で学習するのは、読み書きのことばであるフスハーです。

近代を支配してきた西洋中心主義的な価値観が再検討に付されている今日、イスラーム世界の人々とその文化を私たちが理解することの重要性はもはや論を俟ちません。そのイスラームを理解するうえでも、また、「イスラーム」が生きられている世界を理解するうえでも、イスラームの聖典アル＝クルアーン（コーラン）の言葉であるアラビア語の基本的知識は欠かせません。

前期は「文法」の授業で、教科書に即しながらフスハーの文法を体系的に学習し、後期には、児童用の物語を講読しつつ、前期に習った文法事項を確認し、その修得を図ります。また、「演習」の授業では、ネイティブの先生と連携しながら、前期は練習問題を中心に基礎文法を身につけ、後期は、リスニング、スピーキング、ライティングなど、アラビア語の総合的な力を養います。

しかし、異言語を学ぶとは、単に文法と語彙を覚えることだけを意味するわけではありません。授業では、その言語が「生きられている」世界について、その言語を話す人々がその地でいかなる生を紡いでいるのかについても学ぶことになるでしょう。

これまで慣れ親しんできたラテン文字とは異なる文字体系であり、言語系統もヨーロッパ系諸言語と異なるなどアラビア語のハードルは決して低くはないですが、その分、挑戦し甲斐のある言語だとも言えます。ぜひ、蛮勇をふるって、挑んでください。

◆全回生対象（初級）

アラビア語 I A・B（文法）

正則アラビア語基礎文法の習得（前期）、テキストの講読（後期）

アラビア語 I A・B（演習）

文法、練習問題（前期）、リスニング・スピーキング・ライティング（後期）

◆学部2回生以上対象（中級）

アラビア語ⅡA・B

アラビア語ⅡA・B（演習）

日本語 — Japanese —

全学共通科目・日本語科目は、留学生のみなさんに大学での学習活動を円滑に行うために必要な日本語能力を習得する機会提供を目的として開講しています。日本語科目は初級Ⅰ、初級Ⅱ、中級Ⅰ、中級Ⅱ、上級の5レベルから構成されており、履修レベルは学期開始前に実施するプレースメントテストにより決定されます。

日本語科目は二タイプからできています。一つ目は4技能を総合的に学ぶ総合学習タイプで、もう一つは特定技能強化タイプです。

前者は、短期間で集中的に日本語を学びたい学生向けで、週2コマ構成の4Hコース及び週4コマ構成の8Hコースの二種を開講しています。いずれも初級Ⅰ、初級Ⅱ、中級Ⅰ、中級Ⅱの4レベルで開講しています。8Hコースは1学期間で日本語能力試験（JLPT）の1レベルの習得を目指す学生向けのコースです。一方、4Hコースは2学期かけて日本語能力試験の1レベルの習得を目指す学生向けの通年型コースです（各レベルの後期開講の4HコースBでは、教科書の後半のみ扱います）。なお、これらのコースの部分履修は認められていませんので、全クラスに出席することが求められます。

2タイプ目の特定技能強化科目は、会話、聴解、読解、作文、漢字といった特定の技能の上達を目指すもの及び学術的な目的達成のためのアカデミック・スキル習得を目指すものからできています。これらは、専門の学習・研究活動を行いながら、その遂行に必要な日本語力を習得したい学生向けです。とりわけ上級レベルでは大学での学習活動、研究活動に必要な高度なアカデミック・ジャパニーズスキルの習得を目指します。

全学共通科目・日本語科目の単位が卒業単位として認定されるかどうかは身分や在籍部局、専攻によって異なります。履修制限のある科目もあります。

また、適正クラスサイズの確保のために人数制限を設けていますので、履修登録スケジュールを事前に確認し、それに沿って登録を行ってください。

日本語科目の履修は、様々な背景を有する世界各国からの留学生と共に学び、高め合いながら、主体的学習活動に取り組むことを通して、日本語能力のみならず、コミュニケーション力やアカデミック・スキルを向上させる機会です。

◆工学部地球工学科国際コース生優先クラス（初級）

日本語初級ⅠA・B（4Hコース）

日本語初級ⅡA・B（4Hコース）

◆全回生対象（中級）

日本語中級ⅠA・B（4Hコース）

日本語中級Ⅰ（8Hコース）

日本語中級Ⅰ（会話）

日本語中級Ⅰ（聴解）

日本語中級Ⅰ（読解）

日本語中級Ⅰ（作文）

日本語中級Ⅰ（漢字）

日本語中級ⅡA・B（4Hコース）

日本語中級Ⅱ（8Hコース）

日本語中級Ⅱ（会話）

日本語中級Ⅱ（聴解）

日本語中級Ⅱ（読解）

日本語中級Ⅱ（作文）

◆大学院生対象（中級・上級）

日本語中級ⅠA・B（総合）

日本語中級ⅡA・B（総合）

日本語上級A・B（総合）

◆全回生対象（上級）

日本語上級（聴解）

日本語上級（会話）

日本語上級（読解）

日本語上級（作文）

日本語上級（論文・レポート作成）

日本語上級（講義聴解）

日本語上級（研究発表）

日本語上級（討論技術）

◆Kyoto iUP 生専用科目

日本語初級Ⅱ（6Hコース）（令和6年度不開講）

日本語中級Ⅰ（6Hコース）

日本語中級Ⅱ（6Hコース）

日本語上級（レポート作成基礎A・B）

日本語上級（文献講読ⅠA・B）

日本語上級（文献講読ⅡA・B）

日本語上級（文献講読ⅢA・B）